

シコーと明治30年創業のカバンメーカーが、SDGs特別授業を広島市立楠那中学校で実施 SDGsを“教える”のではなく、“一緒につくる”授業へ 中学生 × 保護者 × 企業で取り組んだ、米袋アップサイクルの現場



写真：授業の様子

シコー株式会社（所在地：大阪府大阪市、代表：白石忠臣、以下シコー）は、1897年創業のスクールバッグメーカーである株式会社片岡商店と協働し、広島市立楠那中学校にて、印刷不良となった北広島町の「わさの舞生産者組合」（提供元：アグリプロデュース（株））の米袋を再利用し、校内商品の販売時に多く使用されるポリ袋に代わるオリジナルの米袋バッグを制作するSDGs特別授業を2026年1月23日（金）に実施いたしました。

本授業では、破棄予定であった印刷不良の米袋をリサイクルし、生徒たちとともに新たなバッグとして生まれ変わらせることで、従来使っているポリ袋の削減を図り、プラスチックの使用量削減と資源循環の重要性について、発想力を育みながら楽しく学ぶ機会を提供しました。完成した米袋バッグは、学校販売時に商品を購入頂いた来年の新入生へ贈呈される予定です。

授業に参加した生徒からは「ミシンを使うのが難しかったけど米袋バッグができて嬉しかった。ポリ袋だと捨ててしまっただけで、米袋バッグは長く使えそう！」といった感想が。また、共に授業を実施した片岡商店の片岡勸社長は「この取り組みも4年目を迎え、今年は生徒だけでなく保護者の方にも製造に参加していただく形へと広がっています。デジタルで多くの情報が得られる時代だからこそ、実際に手を動かし、失敗し、完成させるという身体的な体験には代えがたい価値があると感じています。この授業を通して、リサイクルやものづくりの面白さが「知識」ではなく「実感」として残ってくれたら嬉しいです。」と、SDGs授業の意義について述べました。

Press Release

シコーと片岡商店が広島市立楠那中学校にて特別授業を実施するのは今回で4度目となります。SDGs教育を生徒一人一人が“自分事”として実感できるものにしたいという学校側のニーズと合致したことに加え、当時の校長を務められていた福本先生のご実家が米農家であり、米袋の背景に理解があったことも本取り組みが特別授業として実現した理由の一つです。両社は今後も継続した活動を通して、楽しくSDGsの大切さを次世代に伝えていきます。



写真左：授業に参加した生徒さんと完成した米袋バッグ / 写真右：親子で授業に参加

【代表取締役社長 白石忠臣コメント】

今年も広島市立楠那中学校でSDGsの授業を片岡商店さんと共にできたことを大変嬉しく思っています。今年も元気で前向きな学生さんたちとの交流を通じて「袋屋として社会のためにできることはなんだろうか？」と考える良いきっかけとなりました。来年以降もこのSDGsの授業が継続していくことで少しでも社会貢献できれば幸いです。

【シコー株式会社とは】

食品、化学品をはじめとする産業用包装資材を製造販売するシコー株式会社は「包装で創るストレスフリーな世界～つかいやすく、かたづけやすく、つくりやすい～」をビジョンに、包装に関係する製品を提供しています。

代表取締役社長 白石忠臣

住所：（本社）530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-1-3-1500 大阪駅前第三ビル15階

- ・シコーコーポレートサイト <https://www.siko.co.jp/>
- ・シコラサイト <https://www.siko.co.jp/entrance-sikora/>
- ・ソリューションサイト <https://www.siko-solution.com/>

Press Release

【報道機関からのお問い合わせ】

担当：シコー株式会社大阪本社 支援部 泉谷

電話：06-6345-8456 / info@siko.co.jp